

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	山崎 優馬	学校名	神戸市立こうべ小学校
実施学年	6年	教科	社会科
单元名	『国力の充実をめざす日本と国際社会』～大日本帝国憲法の発布と国会の開設～		

《学びを深めたいポイント》

本時では、国の最高のきまりである憲法の制定や国民の意見を広く聞くために国会を開くように求める自由民権運動で求めていた願いと実際の政府の取り組みを比較し、考えることを一番の目的とした。前時では、自由民権運動の目的が「憲法の制定」と「国会を開くこと」であったことを学習した。その上で、本時では「大日本帝国憲法」と「第一回帝国議会（国会）」が開かれたことを扱った。見かけ上は約束が果たされたように思える政府の取り組みを深く学習する中で、児童は「天皇が国を治める主権」があることを明記していることや、「天皇が任命する大臣で構成する内閣」が強い力をもっていることを学ぶ。また、最初の選挙の有権者は「国税15円以上を納める満25歳以上の男子（当時の人口のうち約1.1%）」であったことを学ぶ。

学習したことを整理し、自由民権運動の成果と政府の実際の取り組みを比較する活動を通して、国会が開かれても国民の政治参加の面では、不十分であったことに気づかせたい。そのために他者参照したり、思考チャートを用いて整理したりして、児童の学びが深まるように授業を展開した。

《SKYMENU 活用のポイント》

本時における SKYMENU の活用場面は、社会科における「話し合う（まとめる）」活動時である。児童は、それまでの学習で、資料や教科書の本文から気づいたことや調べたことを「気づきメモ」に蓄積している。そういった気づきをもとにして、「国民の願いは叶ったのか」という教師の問いかけについて考えた。実際の授業では、その発問のタイミングであらかじめ用意していた思考チャートを載せた「発表ノート」を配布した。同時に教師は「ライブ公開提出箱」を学習者同士で閲覧できない状態で作成した。初めは、思考チャートを用いて願いが叶えられたと言える側面と叶えられていない側面を自分でまとめさせることを求めた。その後、「ライブ公開提出箱」を学習者同士で閲覧できる状態に変更した。このタイミングで児童に「友達の意見も見て、考えてみてね。」と声をかけた。そうすることで、従来は発表した児童の意見のみが全体場で共有され、埋もれてしまっていた貴重な考えを全員に共有することができるようになった。さらに児童にとっても、自分の考えと比べて考えることで、より深く学べる環境を整えた。加えて、学習内容を整理することが苦手な児童は、友達のまとめを見ることで、課題に対する自分の考えを明確にもつことができるようになった。

このように、SKYMENU を活用したことで「整理・分析」が行いやすくなり、「他者参照」することで考えを共有しやすくなり、全員が本時の「目標を達成」することを目指した。

《实践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	1. 「大日本帝国憲法の発布式のようす」の資料を見て、気づいたことや疑問を出し合う。	①授業開始 ②気づきメモ【しおりを置く】 (本時のテーマを書く)	社会科のタグ付けを行い、しおりを置くことで、いつ、何の教科でどのような学びを行ったか、振り返ることができるようにする。
展開	2. 大日本帝国憲法の内容と、第一回帝国議会について調べる。	【児童】 ・調べたことを気づきメモに書いていく。 【教師】 ・発表してほしい気づきや良い考えに「いいね」をしていく。 自分のメモ 児童・生徒のメモ 並べて表示 2024年11月13日(水) 伊藤博文は初代内閣総理大臣となり、その後中心となってたくさんの憲法の案を作った。 日本は、欧米諸国に倣って憲法をもとに政治を行う国になった。 政府は、国会開設に備えて伊藤博文らをヨーロッパに送り、皇帝の権力が強いドイツなどの憲法を調べさせた。 法律や予算は国会が決めることができたが天皇が任命する大臣で構成する内閣が強い力を持つ仕組みになった	・児童は気づきメモに学びを蓄積して、最終的に発表ノートにまとめる活動を想定している。 ・教師から「いいね」をすることで、自信をもって気づきを蓄積したり、発表したりすることが出来るようにした。
まとめ	3. 国民の願いは叶えられたと言えるかを話し合う。 ①配布された発表ノートに学んだことを整理する。 ・左が叶えられた側面 ・右が叶えられていない側面 ②「友達のノートを見る」で友達の考えを見て考える。 ③自分の考えに○をする。 ④考えをもとに話し合う。	 ①配布された発表ノートに学んだことを整理する。 ・左が叶えられた側面 ・右が叶えられていない側面 ②「友達のノートを見る」で友達の考えを見て考える。 ③自分の考えに○をする。 ④考えをもとに話し合う。	・思考チャートのテンプレートを活用することで、考えを整理しやすくする。 ・ライブ公開提出箱の公開設定を「閲覧できない」→「閲覧できる」に途中で変更することで、意図をもって授業を進めることができる。 ・他者参照することで、多様な考えにふれ、自分の意見を再度考えるきっかけをつくることができる。

《実践を振り返って》

①全員の考えを、全員で共有（他者参照）

従来は発表した児童の意見のみが全体の場で共有され、埋もれてしまっていた貴重な考えを全員に共有することができるようにした。そうすることで、児童は自分の考えと比べて考えたり、自分の意見に自信をもったりすることができた。SKYMENU を活用することで、児童が自ら考え、より深く学べる環境を整えることができたと考える。加えて、学習内容を整理することが苦手な児童は、友達のまとめを見ることで、課題に対する自分の考えを明確にもつことができた。つまり同じ土俵に立って、全員が授業に参加することができたと言える。

②思考チャートで整理分析

思考チャートを配布したことで、児童は「国民の願いが叶えられた面」と「国民の願いが叶えられていない面」を整理して、発表ノートにまとめることができた。思考チャートのテンプレートが SKYMENU の中には、たくさんあるので、それらを活用することで、自ら進んで活用する児童もみられるようになった。教科書で調べた内容をまとめるためにも有効に使えたと考える。

③個の学びと集団の学び

今回の授業の大半は個の学びである。そういった点で「気づきメモ」を活用することはできたが、集団の学びの時間は十分に確保できなかった。「ライブ公開提出箱」がリリースされてから、授業の幅がかなり広まったと感じている。しかし、授業内で活用する時間の確保にまだまだ課題が残る。複線型の学びが浸透しつつある今、もう一度授業づくりを見直していきたいと思う。